

第71期 中間株主通信

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
ここに、当社第71期中間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の事業の概況をご報告申しあげます。

2024年12月

代表取締役社長 上田 正博

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

業績ハイライト

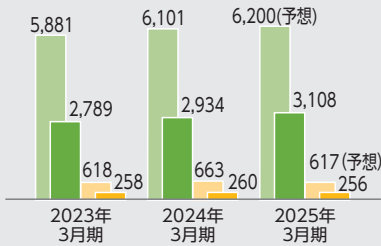
当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

佐藤食品 IR

検索

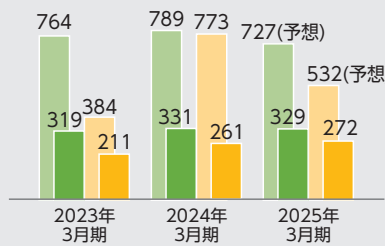
売上高／営業利益（単位：百万円）

売上高（通期 中間期）
営業利益（通期 中間期）



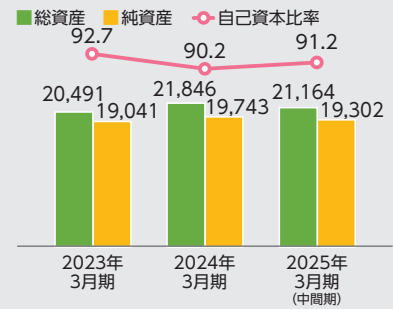
経常利益／中間(当期)純利益（単位：百万円）

経常利益（通期 中間期）
中間(当期)純利益（通期 中間期）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（2024年9月30日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役	稲垣 篤
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	申田 正克
監査役（社外）	稲石 純二
監査役（社外）	関谷 保仁

会社概要（2024年9月30日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	170名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2024年9月30日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	9,167,460株 (自己株式5,101,675株を除く)
株主数	1,076名

株主優待制度の変更に関するお知らせ

基準日	保有株式数	株主優待商品	
		当社製品	デジタルギフト
3月31日	100株以上 500株未満	廃止	タリーズデジタルギフト (2,000円分) ※変更
	500株以上 1,000株未満	当社製品 (1,000円相当)	タリーズデジタルギフト (2,000円分) ※新規追加
	1,000株以上	当社製品 (3,000円相当)	タリーズデジタルギフト (2,000円分) ※新規追加
発送時期	6月上旬頃	+	6月下旬頃

(※) タリーズデジタルギフトは、全国のタリーズコーヒー店舗にて、2,000円分のご飲食代金としてご利用いただけます。

- 変更の時期
2025年3月31日基準日から
- 発送の時期
・当社製品（500株以上保有の株主様） 6月上旬頃（予定）
・タリーズデジタルギフト 6月下旬頃（予定）

佐藤食品の茶エキス粉末

当社の茶エキス粉末は、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

[写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキス粉末）]



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。

Sサトーは、独自の「粉末化」技術で

天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



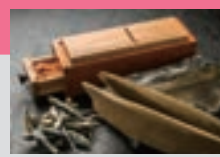
茶エキス ● 売上高：1,372百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



天然調味料 ● 売上高：1,223百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛、いか）等
※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



植物エキス ● 売上高：453百万円

イチゴ、レモン、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、シャインマスカット、桃、栗、ゆず、はちみつ、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



粉末酒 ● 売上高：55百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

当中間期の概況

当中間会計期間における我が国経済は、円安や訪日外国人旅行者数の増加によるインバウンド需要の拡大や、雇用情勢の改善、個人消費の持ち直しを受け、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇による消費者マインドの低下や、金融資本市場の変動による景気の下振れが懸念されることから、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

海外経済につきましては、欧米において高い金利水準が続いていることや、中国経済の先行き懸念による景気の下振れリスク、地政学リスクの高まりなど、予断を許さない状況が続いております。

当社といたしましては、変化、多様化する消費者ニーズや顧客ニーズを的確に把握し、それらのニーズに合致した高付加価値製品の開発を実現すべく、新製品・新技術開発に挑戦していくとともに、エネルギーコスト及び原材料コストの動向に注視しつつ、安心・安全な原材料の安定調達に取り組んでまいりました。

このような状況のもと、当社の当中間会計期間における売上実績は、茶エキスを中心に堅調に推移いたしました。

茶エキスにつきましては、緑茶エキス等が減少したものの、麦茶エキス・ほうじ茶エキス等が増加したため、売上高は1,372百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末魚介等が減少したものの、鰹節エキス・椎茸エキス等が増加したため、売上高は858百万円（同1.1%増）となりました。

植物エキスにつきましては、果実エキス等が増加したため、売上高は453百万円（同15.4%増）となりました。

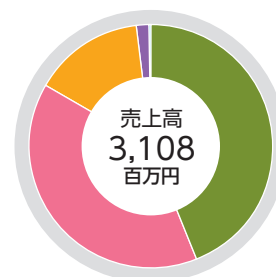
液体天然調味料につきましては、白醤油・チキンエキスが減少したものの、昆布エキス等が増加したため、売上高は364百万円（同8.0%増）となりました。

粉末酒につきましては、ウォッカタイプ・清酒タイプ等が増加したものの、ワインタイプ等が増加したため、売上高は55百万円（同3.2%増）となりました。

以上の結果、当中間会計期間の売上高は3,108百万円（同5.9%増）となり、前年同期に比べ173百万円増加しました。

利益面につきましては、売上原価の増加により営業利益は256百万円（同1.4%減）、経常利益は329百万円（同0.6%減）となりました。また、法人税等118百万円（同61.1%増）を計上したため、中間純利益は272百万円（同4.2%増）となりました。

売上高構成比



■ 茶エキス	44.1%	1,372百万円
■ 天然調味料	39.4%	1,223百万円
■ 植物エキス	14.6%	453百万円
■ 粉末酒	1.8%	55百万円
■ その他	0.1%	3百万円

中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。